



注目！話題の新製品

Topics

遂に信号系の端子にNCFを初導入！

フルテックから好評のNCF採用 新フラッグシップ・ラインケーブルが登場

コンセントやプラグ、IEC端子などの電源周りのほか、ケーブルホルダーにも採用されて、画期的なクオリティアップ効果が大好評を得ているフルテックの素材「NCF」。このほど信号系の端子にも初採用となり、RCAプラグ「CF-102 NCF (R)」が登場した。そのRCAプラグを搭載する新たなフラッグシップ・インターコネクトケーブルが完成した。斬新な音の魅力を発揮する、期待のケーブルの魅力と活かし方を福田氏がレポートする。

Text by
福田雅光
Masamitsu Fukuda
Photo by 田代法生



FURUTECH

Lineflux NCF (RCA)

RCAインターコネクトケーブル ¥225,170 / 1.2mペア (税込)

Specifications

●導体:単芯α(アルファ)OCC導体 ●シールド:
2層 ●絶縁/誘電体:高級ポリエチレン ●共振
減衰材料:シース内のナノセラミック/カー
ボンパウダーコンパウンド ●ケーブル外径:約
13.0mm ●プラグ外径:全長約φ14.0mm×
54.0mm

●端子の重要性とアナログ再生
もっと重視すべきケーブル
プラグはその音を決定つける

インターコネクトケーブルがオーディオシステムの再生音に大きな作用を持つことは重視されている一方、どんなアンプやスピーカーを使うにせよ、機材の裏側で活躍するケーブルの存在は忘れられがちだ。特にアナログオーディオシステムでは、カートリッジからEQアンプへ、さらにプリアンプやパワーアンプへと機器間の信号を伝達するケーブルは、「適当ではダメなんです」と言いたい。

例えば、カートリッジやアンプをグレードアップして音が変わる。それは良かったことではあるが、現在のどんな高級機器でも、使い方によってはあまり感激は出てこないことになる。筆者は真価という機器の絶対値を追求し、自宅で使うケーブルも高額ではない常識的な範囲で厳選してオーディオを突き詰めている。その結果、思い切ったことを書くことができるのだ。

今回のテーマは、フルテックから新発売される最高級RCAケーブルである。アンバランスケーブルのインターコネクトだ。ケーブルは、導体性能に注目さ

れることが多い。もちろんそれも重要だが、装着するプラグによる性能の変化は大きく、端子の性能が最終的に性能を決定する。つまりケーブルと端子の性能で、全体の音が決定している。

オーディオシステムの増幅動作は、信号入力と電源入力がある。電源で作られた直流エネルギーが、電源で作られた直流エネルギーが入力に比例して信号出力として出てくる。こう考えれば、電源の重要性が理解できる。ただ、信号データにはインターコネクトケーブルを交換してみれば分かるように、SN比、解像度、帯域やレスポンスなど、あらゆる音の要素がケーブルの伝送経路によって大きく作用することが確認できるはずだ。

特にアナログレコードでは、1mV前後の微小信号を1000倍、2000倍以上に増幅する回路を必要としている。ノイズが混入すれば、同じ倍率で増幅される。また、ロスというマイナス要素があれば、ラインレベル以上にダメージを受けることになる。

● Linflux NCF (RCA) を聴く
NCFプラグ化の効果
旧モデルと比較して検証

フルテックの最高級RCAケーブルが、高音質化に効果があると注目されているNCF(ナノ・クリスタル・フォーミュラ)素材をプラグ部に導入してバージョンアップされた。今回、旧バージョンと比較試聴すること

ができたので報告したい。なお、このモデルのケーブル部、導体や構造は継承され、プラグ部のみが改良されている。したがって、このテストは総合的な結果であると共に、NCFプラグの効果を示すものになる。

ところでこのNCFは、ナノ粒子化したイオン化する特性の強い鉱物を、樹脂とハイブリットしたもので、2015年に開発。フルテックではこれまでに最高級電源プラグやIECコネクターの電極固定部、またケーブルインシュレーターや機器接続プラグ部を固定するNCF Boostersシリーズに採用し、予想を超える効果を見せている。

表現力が見違えるほど向上し
NCFの効力に改めて注目

NCFを採用していない旧モデルのケーブルLinflux (RCA)は、中間帯域から中低域を主体にしたバランスであり、音の冴えや抜けは最高とはいえない。中低音はポリウムが主体になり、締めりは十分とはいえない印象であった。

ところが新製品のLinflux NCF (RCA)にすると、中音や高音の表現力が向上し、見違えるように変化している。

高音の帯域特性やSN比、表現力を高めるため、低音のダンピングも強化されて引き締まる。中高音の表現力は、低音の制動力に大きな影響があり、関係していることが理解できる。SN比は高く、解像力もより強化されており、レファレンスクラスと呼べる性能をもたらしている。改めてNCFの効力に注目

する。ケーブル部は旧モデルと共通でその部分の音質は変わらないはずだが、プラグ部の刷新によって、結果として魅力的な高級RCAケーブルの性能が達成されている。

透明感のある中音のレスポンスがインパクトを明確に描くことで、それが躍動的な表現に勢いをもたらすとともに、全体にコントラストを高めている。今回のケーブルは、硬質的な分解力の高さや超写実を徹底追求した設計というよりも、アナログファンにも違和感のない、柔軟にして豊かなニュアンス表現力といった要素を重視した音

質設計を感じることができ。高級アナログマニアのユーザーに向けたRCAインターコネクトケーブルといえるだろう。

アナログ再生でもケーブルは色々な経路で使われる。このケーブルはどの経路に導入するとベストなのか。プリアンプやリメインアンプで、MCトランスやイコライザーアンプを接続している場合は、その部分が適している。トランス出力やEQアンプ出力である。ここでもし信号をロスしたら、後段でどのような高精度な増幅回路を導入しても回復できないからだ。

ワンピース Alpha OCC 導体構造拡大図



突極の帯電防止および共振減衰材料NCFを調査した、新設計のRCAプラグ部

